二村建築（弥彦村）お客様の美術展

近藤栄子さん（新潟市）、山本英世さん（新潟市）

大作の油彩画と星景写真13点展示

弥彦村上泉、㈱二村建築（二村清人社長）は一日から三十日まで同社事務所中二階ギャラリーで「お客様の美術展2024」を開き、新潟市中央区の近藤栄子さん（六三）の油彩画四点と、新潟市西蒲区の山本英世さん（七一）の星景（せいけい）写真九点合わせて十三点を展示している。

「お客様の美術展」は同社の顧客や取引業者で芸術に励んでいる人の作品を紹介する場で、同社の二村清栄会長が企画しており、今回はおよそ十年ぶりの開催。

近藤さんは油彩画を得意とし、絵画のキャリアは三十年余り。平成十二年に県展、十七年に中央の新制作展でそれぞれ初入選。三条市出身で、二十六年に済生会三条病院のギャラリーで「カーネーションによせて」と題した三人展を開いたこともある。

鳥に愛着を感じており、今回は「ことしの新制作展で入選した「私のすみか」など、鳥を題材にしたいずれも百三十号の大作四点を展示。

「私のすみか」で描いているのは、県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里（新発田市）で出合ったトンビやハトなどの鳥たち。

さえずりの里は傷病鳥獣の収容施設でもあるが、「最初は傷ついた鳥を慰めようとの思いで行っていたが、一生懸命に生きている姿に感動し、反対に生きる喜びを感じるようになった」と近藤さん。

作品では、そうした鳥たちから受ける癒やしや生きる力を心象風景のような形で描いている。

山本さんは建具屋を営む建具職人。十八歳でカメラを始め、写歴は約半世紀。星空や自然をメーンに独学で撮り続けている。

全王紙源
屋根・外壁・雨ドイ
駐車場除雪リフォーム等
0256-64-8222

今回は三年前に県展で奨励賞を受賞した「蔵の顔」など、星空と風景が共存する星景写真九点を展示。

全紙サイズが中心で、地上の構造物などと組み合わせて月や星の軌跡を神秘的に撮影し、「絵画風」の質感で仕上げている。

なかでも画面上の構図に意識を向けており、「現地に行って構図を決めるのに三十分から一時間。これが一番大変かも知れない」とも。

「蔵の顔」では、古くからある地元の酒蔵を下から見上げるような角度で手前に配置し、バックに無数の円が連なった星空を撮している。

お客様の美術展は会期中無休。午前九時から午後四時まで見ることができる。入場無料。詳しくは二村建築（☎九四－三九二八）に問い合わせる。

近藤さんの「私のすみか」

山本さんの「蔵の顔」

会場の近藤さん（右）と山本さん

会場のギャラリー